

沖縄、相次ぐ米軍機事故。
子どもの命を奪い、日本政府は、



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団

2017.12.19. No.1529.

御相談はお気軽に

TEL とも 3905-0970

FAX さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)



憲法9条を変えて
「戦争する自衛隊」に
してはなりません。訴える
池内さん

- ◎ 総選挙から2ヵ月。東京12区、83544票の期待に「なんとしてもこたえてゆきたい」と、新たな決意でかけまわる。池内さおり前衆議院議員。
- ◎ 今、安倍首相の改憲、とりわけ9条に自衛隊を「書き込むだけだから(安倍首相発言)…」の危険性を訴え、「3,000万人署名」とよびかけたい。



2017/12/16

時事世論調査
時事通信が8〜11日に実施した12月の世論調査によると、改憲の発議を来年1月召集の通常国会で
行つべきかどうかについて、反対が68・4%と7割近くに上り、賛成は17・1%で、反対意見の合計が賛成を大きく上りました。自民党
支持者でも反対が50・6%と半数を超え、賛成は42・9%でした。

来年の改憲発議 反対7割

核兵器の終わりの始まりに



ノルウェーのオスロで、ICAN事務局長の妻とサーローさん(左)が、ノーベル平和賞を受賞した。ICAN事務局長は10日、オスロ市街をロケした。

ノーベル平和賞授賞式 禁止条約すべての国で

ICAN事務局長とサーローさん演説
● ノルウェーの首都オスロで12月10日、「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」のノーベル平和賞の授賞式がおこなわれました。
● 写真のように、広島が被災したサロー・節子さん(85歳、カナダ在住)がICANの事務局長とともにメダルを受けとり、スピーチしました。
● お二人のスピーチの概要は、「しんぶん赤旗」から引用し、2面に載せています。ごらん下さい。



4
▶ 北区というよりは「軍都」といわれた歴史をもちます。明治5年ごろ、赤羽火薬庫がつけられ、陸軍被服本廠など、次々に。▶ 昭和12年7月7日の蘆溝橋事件がきっかけで日中戦争勃発、そして太平洋戦争へ。二度と戦争をくり返すな!!

→ 人形作家 園 サロの憲法制作所

サロー節子さんは、世界の人々に訴えた。

「私が受けた広島市の街は、1発の爆弾で完全に破壊された。住民のほとんどは一般市民で、焼かれて灰と化し、蒸発し、黒焦げの炭になった。……核兵器は必要悪ではなく絶対悪だ。……7月7日、禁止条約を採択。」

●私たち日本共産党北区議員団は、12月5日、広島を訪れ、被爆者の方から、核兵器禁止条約が採択された国際的な意義についてお聞きました。
●そして、日本政府が一刻も早く条約に署名するよう求めています。

2017.12.19. 「さかしま」No.1529

授賞式講演要旨

サロー節子さん

2017.12.12付
「しんぶん赤旗」

ノーベル平和賞授賞式でサロー節子さんの演説に総立ちになって拍手を送る人たち 10日、オスロ

【オスロ＝時事】ノーベル平和賞授賞式でのサロー節子さんの講演要旨は次の通り。

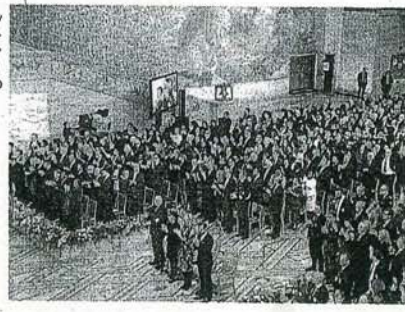
広島と長崎の原爆投下から奇跡的に生き延びた被爆者の一人としてお話しする。この会場で、広島と長崎で亡くなったすべての人々の存在を感じてほしい。彼らの死を無駄にしてはならない。



＜踵＞広島原爆ドームの近くにある広島県原爆被害者団体協議会の事務所。左はオスロ出発を前にした、被爆二世の佐々岡邦彦理事長。中央は被爆体験と語る志岡氏ら

米国が最初の原爆を私が住む広島に落とした朝のことを鮮明に覚えている。私が愛した街は1発の爆弾で完全に破壊された。住民のほとんどは一般市民で、焼かれて灰と化し、蒸発し、黒焦げの炭になった。この時亡くなった4歳の若い、英治は私にとって世界で核兵器によって脅かされているすべての罪のない子どもたちを代表している。私たちが被爆者は、この世に終わりをもちたらず核兵器について世界に警告せねばならないと確信し、繰り返して証言をしてきた。しかし、広島と長崎の残虐行為を戦争犯罪と認めない人たちがいる。核兵器は必要悪ではなく絶対悪だ。

今年7月7日、世界の圧倒的多数の国々が核兵器禁止条約を採択した時、私は喜びで感極まった。かつて人類の最悪の時を目撃した私は、この日、人類の最良の時を自撃した。これを、核兵器の終わりの始まりにしよう。



核保有国の政府や「核の傘」の下で共犯者となっている国々の政府に言いたい。私たちの証言を聞き、私たちの警告を心に留めよ。世界のすべての国の大統領、首相に対し、条約に参加し、核による絶滅の脅威を永遠に除去しよう願う。

私は13歳の少女だった時、くすぶるがれきに埋もれながら、光に向かって動き続けた。そして生き残った。今、私たちの光は核兵器禁止条約だ。

核兵器の傘の下に守られていると信じている国々に問う。あなたたちは、自国の破壊と、自らの名の下で他国を破壊することの共犯者となるのか。すべての国に対し、われわれの終わりはなく、核兵器の終わりを選ぶよう呼び掛ける。化学兵器、生物兵器、クラスター爆弾や対人地雷と同様、核兵器は今や違法となった。その存在は非道徳だ。その廃絶は、われわれの手の中にある。